

65
9-13

口語法取調ニ關スル事項

4N-5
Ko 476



2728

口語法取調に關する注意

甲

びるま

大田文庫

一、豫め調査方針を定めて、各市郡に就きて調査せられたし。

便宜上、更に市郡を數區に分割して調査せらるゝも妨なし。但し、この場合には、地方的區分を明示せる地圖を添附せられたし。

二、以上の方言區域と舊藩領域と關係あるものは、其の藩名を附記せられたし。

三、方言の、其の地方固有のものなりや、或は他の方言の影響を受けたるものなりや、を明記せられたし。

四、回答中の用語は成るべく簡潔にして明晰なる様、注意せられたし。

五、回答は、一問毎に別紙に認められたし。

六、前回の調査報告書中に左の如き不備の點ありたり。参考のため之を掲ぐ。

(一) 調査區域ノ分割、及び調査報告ノ整理ハ、府縣ニヨリテ大小精粗ノ別一ナラザルコト。例ヘバ、

(イ) 一府縣下全體ノ調査ヲ概括シテ報告シタルモノ。

此ノ種ノ報告ノ内ニハ、間々、地方的差別ヲ記入シタルモノアリ、又、當事者ガ市郡及ビ其ノ他ノ小區域内ノ調査報告ニ基ヅキテ、概括シタルモノアレドモ、要スルニ、概括廣キニ過ギテ、調査ノ趣旨ヲ失ヒタル傾アリ。

(ロ) 一府縣下ヲ數區域ニ分チ、各區域内ノ調査ヲ整理シテ報告シタルモノ。

此ノ種ノ報告ノ内ニハ、間々、各區域内ニ於ル地方的差別ヲ記入シタルモノアリ、又、數區域ニ分チタルガ爲メ、調査モヤ、精密ニシテ、前者ニ比スレバ遙カニ優レリ。

(ハ) 一府縣下ニ於ル各市郡内ノ調査ヲ報告シタルモノ。

此ノ種ノ報告ノ内ニハ、更ニ町村等ノ小區域ニ分チテ其ノ調査ヲ報告シ、又、
間々、其ノ他ノ地方的差別ヲ記入シタルモノアリ、又、府縣ニヨリテ、市郡及ヒ
其ノ他ノ調査報告ヲ其ノ儘回送シ來リタルモノト管内各區域ノ報告ヲ概
括シ、之ヲ整頓シテ回送シ來リタルモノトノ二種アリ。

(二) 各府縣舊藩領域圖、方言及ビ音韻ノ分布圖、ヲ添附セルモノ極メテ少キコト、

(三) 調査區域ノ地方的區分明ラカナラザルモノ多キコト。例ヘバ、愛媛縣ニ於ル今

治地方、西條地方、松山地方、大洲地方、宇和島地方、ノ如キ、富山縣下新川郡ニ於ル

區劃ノ如キ、埼玉縣北足立郡及ビ入間郡ニ於ル區劃ノ如キハ、其ノ區劃ノ範圍

明ラカナラズ。

(四) 報告書中ニ用語ノ意義明カナラザルモノアルコト。例ヘバ、『稀に用ふ』トイフ

ハ、之ヲ用キル者少シトイフ意カ、之ヲ用キルコト少シトイフ意カ、『混用す』ト

イフハ如何ニ混用スル意カ、例ヘバ、第貳拾條ニテ『混用す』トイフ

なさらなさりなさるなされ (四) 段

……なされ (下二段)

なさら …… なさる なされ (四 段)

…… なされ …… (下二段)

ノ如ク二者ヲ混用スル意ナルカ、其ノ區別明ラカナラズ。又、『用ゐることあり』トイフハ、ソノ形式ノミヲ單用スルコトアリトノ意ナルカ、ソレト共ニ他ノ形式ヲモ併用ストノ意ナルカ。『用ゐず』トイフハ、例示ノ如ク用キズシテ、本來ノ如ク用キル、トノ意ナルカ、又ハ、全ク異ナル或他ノ形式ヲ用キルトノ意ナルカ、明ラカナラズ。中ニハ、傍例ニヨリテ、マ、判断シ得ルモノモアレドモ、概シテ不明ナルモノ多シ。

(五) 報告ニ不備ナル點ノ多キコト。例へバ、

佐行變格ノ打消ハ、^ズヲ用キル、トノミ云ヒテ、^セズト用キルカ、^しズト用キルカ、ヲ明記セズ。加行變格ノ未來ハ、^ベト云フ、トノミ云ヒテ、^來ベト用キルカ、^來ベト用キルカ、ヲ明記セズ。又、『活用を混用す』ト云ヒテ、^活用ノ何レノ段ニ於テイカニ混用スルカ、ヲ明記セザルモノ多シ。又、調査者ノ、諮問事項中ニ例示シタル少數ノ標識語ニノミ拘泥シ、一般ニ涉リテ調査セザリシガ爲メ、其ノ報告ヲ以テ直ニ全般ヲ推定シ能ハザルモノアリ。但シ、此等ノ場合トイヘドモ、

是ニ由リテ一般ノ傾向ヲ推測スルコト素ヨリ難キニアラズ。

(六) 報告中ニ調査ノ正確ナラザルモノ多キコト。

口語ニ於テハ將然、已然、ノ兩形ハ、當今、ソノ語形及ビ意義互ニ混淆シ、語形ハ已然ニシテ意義ノ將然ナルモノアリ、語形ハ將然ニシテ意義ノ已然ナルモノアリ。然ルニ、是ニ對スル報告ニシテ明瞭ヲ缺キタルモノ、或ハ、正鵠ヲ失ヒタルモノ、多シ。其ノ他、調査上ノ注意ノ不十分ナルモノ、報告ノ不正確ナルモノ、亦少カラズ。

(七) 方言ノ行ハル、範圍場合等ヲ明示セザルモノ多キコト。

方言ハ男女、年齢、階級、及ビ、職業、等ノ區別ニヨリ、或ハ、尊敬シテ云フ場合、丁寧ニ云フ場合、等ニヨリテ、多少ノ差異ヲ存スルヲ常トス。此等ノ區別ハ口語法ノ調査ニ最モ緊要ナルモノナレドモ、報告書ニハ概ネ不明ナリ。例ヘバ、或府縣ノ報告ニ、マ、町民ト舊藩士トニヨリ、教育ノ有無ニヨリ、發音緩急ノ別ニヨリ、又ハ、嚴格ニ云フ場合ト平常ノ場合トニヨリテ、用語、或ハ、云ヒアラハシ方、ニ相違アル點ヲ指示シタルモアレドモ、多クノ報告ニハ、此ノ種ノ注意ヲ欠キタリ。

(八) 方言ノ由來ヲ明示セザルモノ多キコト。

或方言ニシテ、其ノ地方ニ古來行ハル、モノナリヤ、或ハ、近來他地方ヨリ輸入シタルモノナリヤ、或ハ、近來新ニ發生シタルモノナリヤ、明ラカニ記載セザルモノ多シ。

乙

一、回答には、本書の各條項の下に掲載せる實例に就きての回答のみならず、成るべく他の類例をも多量に記入せられたし。

二、回答には、其の地方にて使用する實例に類似せるものにして而かも然かは使用せざるものをも記入せられたし。例へば、「賣ラヌ」、「取ラヌ」とは云へど、「有ラヌ」とは云はず、と云ひ、「出シテ」を「出イテ」とは云へど、「指シテ」、「殺シテ」を「指イテ」、「殺イテ」とは云はず、と云ふが如し。

三、自分方、相手方、並びに、其の老幼、男女、身分の高下、等に依りて種

々の言ひ方あるものは、成るべく詳細に注記せられたし。

四、回答は、其の實例を片假名にて發音通正確に記入し、必要あらばローマ字にて注記せられたし。

但し、片假名及び、ローマ字は、左の注意に従ひて使用せられたし。

(イ) カ行鼻濁音、即ち、nga ngi ngu nge ngo は「ガ」「キ」「グ」「ゲ」「ゴ」にて寫すこと。

ローマ字にて寫す場合には、必ず ng の如く線を加ふること。

(ロ) 「ジ」と「ヂ」とを同一視すべからざること。

ローマ字にて寫す場合には、「ジ」は ji にて寫し、「ヂ」は dji にて寫すこと。

(ハ) 「ズ」と「ヅ」とを同一視すべからざること。

ローマ字にて寫す場合には、「ズ」は zu にて寫し、「ヅ」は dzu にて寫すこと。

(ニ) すこと。

(ニ) ti tu と云ふ音は「テイ」「トッ」にて寫し、その濁音 di du は「ダイ」「ドゥ」にて寫すこと。

(ホ) fa fi fe fo と云ふ音は「ファ」「ファイ」「フェ」「フォ」にて寫すこと。

(ヘ) ye と云ふ音は「イエ」にて寫すこと。

(ト) wi we wo の音、即ち「キ」「エ」「チ」の音は「ウイ」「ウエ」「ウオ」にて寫すこと。

(チ) tya tyu tye tyo と云ふ音は「チャ」「チュ」「チェ」「チョ」にて寫し、その濁音は「ヂャ」「ヂュ」「ヂェ」「ヂョ」にて寫すこと。

(リ) kwa kwo と云ふ音は「クワ」「クォ」にて寫し、その濁音 gwa gwo は「グワ」「グォ」にて寫し、その鼻濁音 ngwa ngwo は「グヰ」「グヱ」にて寫すこと。

(ヌ) tsa tsi tse tso と云ふ音は「ツァ」「ツイ」「ツェ」「ツォ」にて寫し、その濁音 dsa dsi dse dso は「ヅァ」「ヅイ」「ヅェ」「ヅォ」にて寫すこと。

(ル) 此の他の拗音は、上の假名の右側下に「ヤ」「ユ」「エ」「ヨ」を細書して寫すこと。

(ナ) 長音は必ず「ー」にて寫すこと。

ローマ字を用ゐる場合には、ko^ーso の如く當該母韻の上に横線を加ふること。

(ロ) 促音は、上の假名の右側下に「ッ」を細書して、寫すこと。

ローマ字にて寫す場合には、mo^ッto, ga^ッko の如く、「ッ」を用ゐて寫すこと。

五、發音を正確に表記せんがために種々の符牒を用ゐらるゝ場合には、その符牒の用法を説明しおかれたし。

合引おきのの終親の用おきと結明しなはひ其の

正親普き五部引奏馬をいふたの引野々の終親を用ゐるゝなる

結する

引引に字引の終親を組合引おきの終親の用おきと結明しなはひ其の

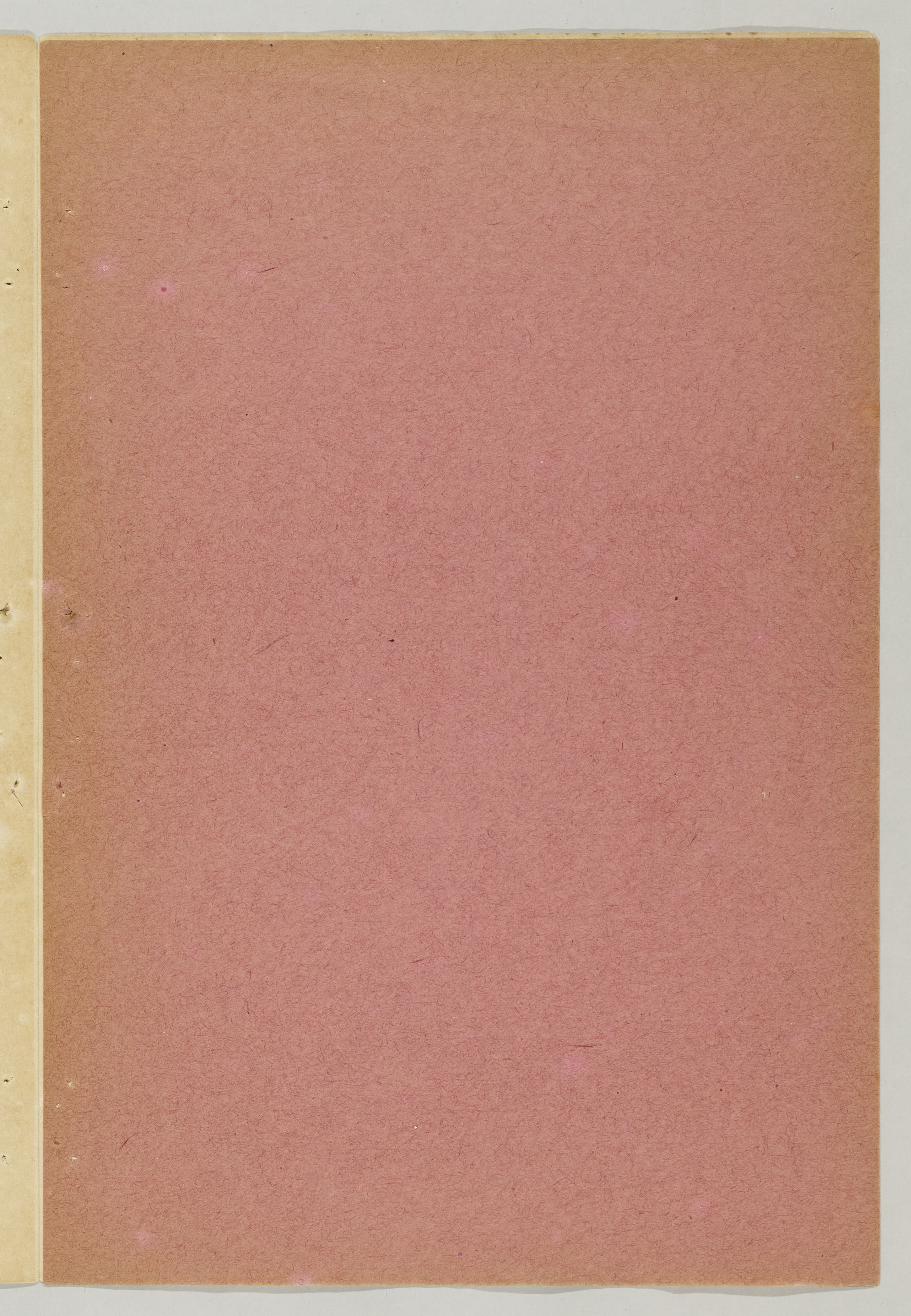
(四) 引引おきのの終親の用おきと結明しなはひ其の

結する

引引に字引の終親を組合引おきの終親の用おきと結明しなはひ其の

(五) 引引おきのの終親の用おきと結明しなはひ其の





口語法取調に關する事項書方説明

- 一、片假名にて書きたるは、假名遣の如何に關せず凡て發音のまゝに書きたるものなり。
- 二、傍に||を施したる語句は回答を得んと欲する部分、又は、類似の用例を得んと欲する部分の一例なり。
- 三、()の中の語は参考の爲に擧げたる地方語なり。
- 四、()の中の語は説明、解釋、又は、それに代ふる爲の文語なり。
- 五、[↑]は語の終を音調を高くすることを示す記標なり。
- 六、……は文句を適宜略したるものなり。

六………お文ゆき蘇宜細しおるものなり。

正………お語の蘇き音階を高くするこゝとさ示す馬脚なり。

四………の中の語お端脚續舞又おたれお分るる語の文語なり。

三………の中の語お參考の語に舉げおる此は語なり。

の語階を辨いし給する語の一例なり。

二………お語に………お蘇しおる語はお回答を辨いし給する語を又お蘇し

しお書きたるものなり。

一………お語各………お書きたるお語の蘇の成ゆに關ちて凡て聲音のま

じ語が取臨し關する事取書た語也

口語法取調に關する事項

第一條

自分、相手、他人、をいふ代名詞、如何。

ワタクシ。ワタシ。ワシ。アナタ。アンタ。オマエ。ソナタ。ドナタ。
アレ。アノヒト。ドノカタ。アイツ。ドイツ。の類。

第二條

人の名を呼ぶ時にその名の下にそへてよぶ語、如何。

竹サマ。サン。ヤ。マ。富山。ヤン。高知。サ。某地方) の類。

第三條

事物の數多きことをあらはす爲に、又は、それを漠然とあらはす爲に、そふる語、如何。

ワタクシドモ。ワタシタチ。ワタシラ。本ナド。君ナゾ。家ヤナンカ。

の類

第四條

「のみ」の意をあらはす爲にそふる語、如何。

アナタダケ。コレギリ。三ツシカナイ。コレホカナイ。コレホッキヤナイ。
コレバカリ。コレバカシ。の類

第五條

物を指す語、如何。

コレ。ソレ。アレ。ドレ。コレラ。アレラ。アレナド。の類

第六條

場所を指す語、如何。

ココ。ソコ。アソコ。ココラ。ソコラ。アソコラ。コチラ。ソチラ。
アチラ。コッチ。ソッチ。ドッチ。(コチウラ。アチウラ。某地方)の類

第七條

方向を指す語、如何。

コチラ。ソチラ。アチラ。ドチラ。コッチ。ソッチ。アッチ。ドッチ。
(コチウラ。アチウラ。某地方)の類

第八條

左の諸語の活用形

- (イ) 文の終につかふ場合の形、
 - (ロ) 名詞につゞけていふ場合の形、
 - (ハ) ますにつゞくる場合の形、
 - (ニ) たいにつゞくる場合の形、
 - (ホ) ぬ、ない、又、れる、られる、せる、させる、等につゞくる場合の形、
 - (ヘ) 過去をあらはす爲に語をそふる場合の形、
 - (ト) 未來をあらはす爲に語をそふる場合の形、
 - (チ) 推量をあらはす爲に語をそふる場合の形、
 - (リ) 假定をあらはす爲に語をそふる場合の形、等
- 如何。

買。	云。	射。	居。	干。	起。	延。	見ゆる。	捨。
植。	來。	爲。	居。	死。	借。	足る。	飽。	損ず。

第十四

善イヨイ。ワルイ。廣イ。酸イ。涼シイ。黄。
 恐シイ。大イ。小イ。マズイ。静カナ。暖カナ。
 イヤナ。僅カナ。樂ヲクナ。綺麗ナ。四角ナ。澤山ナ。
 氣ノ毒ナ。ソナ。コンナ。アンナ。ドンナ。コノヨイナ。
 ソノヨイナ。アノヨイナ。ドノヨイナ。

第十條 過去をあらはす語遣如何。

買ツタ。借リタ。來タ。爲シタ。死ンダ。飛ンダ。
 善カッタ。大キカッタ。静カダッタ。モツト綺麗ダッタ。丁度コンナダッタ。

マア、ソノヨイデアツタ。(聞イタツタ。讀ンダツタ。某地方)の類

第十一條 未來をあらはす語遣如何。

買ラ。延ビヨイ。來コヨイ。來キヨイ。死ノイ。ソナコトガアローモノナラ大變ダ。

廣カロー。マズカロー。モ一少シマズカローモノナラ、トテモクエタモノヂャナイ。
 (降ラズ。落チズ。静岡、長野。アシタ行コハズニナッテイル。ソナコトワナカロー)

第十二條

將に然かせんとしてゐることをあらはす語遣如何。

死ニカカッテイル。死ノトシテイル。今起キカカッテイル。今起キヨートシテイル。
の類

第十三條

動作の引き續きゐることをあらはす語遣如何。

雨ガ降ッテイル。風ガ吹イテイル。鐘ガナッテイル。橋ノ上ニ人ガ立ッテオリマス。
(雨ガフリヨル。車夫ガ巡查ニ叱ラレヨッタ。關西地方。雨ガフッテアッタ。
車夫ガ巡查ニ叱ラレテアッタ。本ヲヨンダッタ。東北地方) の類

第十四條

目前の有様をあらはす語遣如何。

路バタニ人ガ死ンデイル。本ヲ買ッテイル。勉強シテイル。山ガ近ク見エテイル。
着物ガ路傍ニステアル。机ノ上ニ本ガノセテアル。天氣ガ靜カダ。
日ガ暖カダ。 の類

第十五條 事がらを確と説定する意をあらはす語遣、如何。

アレワ人ダ。ソレワワタシノダ。ソレワキノノ朝ダツタ。

ヨク見タラ知ラナイ人ダツタ。コレカラ遊ブノダ。コレデイイノダ。

ソレガヨクナイノデス。(今日ワ日曜ヂヤ。ヨク見タラ知ラン人ヂヤツタ。關西地方。

今日ワ日曜ヤ。ソレワワテイノヤ。ヨク見タラ知ラン人ヤツタ。大阪。

コレカラ遊ブガヂヤ。コレデイイガヂヤ。ソレガヨクナイガデゴザンス。富山)の類

第十六條 推量する意をあらはす語遣、如何。

來ルダロ。來ヨ。來キ。來ヨ。爲ルダロ。爲ヨ。

止メルダロ。延ビルダロ。ノビヨ。善カロ。恐シカロ。

悪イダロ。大キイダロ。暖カダロ。ソノ苦ワドンナダロ。

(來ルヤロ。來ンヤロ。死ヌヤロ。大阪。行クロ。善イロ。高知。

來ルツラ。酸イツラ。ドンナダツラ(静岡、長野)の類

第十十八條 意志

第十七條 未來のことを推量し兼ねて打消す意をあらはす語遣、如何。

買ウマイ。起キマイ。捨テマイ。コマイ。来マイ。

爲マイ。爲マイ。見マイ。死ヌマイ。

(来ーマイ。アローマイ。見ヨーマイ。来マシヨマイ。京坂地方)の類

第十八條 意志をあらはす語遣、如何。

買ヲー。著ヨー。起キヨー。捨テヨー。シヨー。(起キユー。捨テヨー。シヨー。關西地方。

買ワズ。捨テズ。静岡、長野)の類

第十九條 打消をあらはす語遣、如何。

来ナイ。来ナイ。来ン。爲ナイ。爲ン。

足リナイ。足ラナイ。足ラン。足リン。ヨクナイ。

大キクナイ。黄色クナイ。静カデナイ。ラクデナイ。行カナカッタ。

遊バナカッタ。行カナクテ仕合ダッタ。ソシナニ遊バナイデ勉強ヲオシ。

第二十條

我に能力ある意をあらはす語遣、如何。

(行カナンダ。遊バナナダ。行カナンデ仕合ダッタ。ソナニ遊バナンデ勉強ヲオシ。行カナンデ仕合ダッタ。ソナイニ遊バント勉強シナハレ。)の類

買ハレル。着ラレル。捨テラレル。爲ラレル。爲ラレル。讀メル。

(讀ミエル。捨テエル。來レル。見レル。見レン。)の類

第二十一條

我に能力なき意をあらはす語遣、如何。

買ワレナイ。買エナイ。死ナレナイ。死ネナイ。

(買ワレン。買エン。死ナレン。死ネン。買イエナイ。死ニエナイ。)

エー買ワン。ヨー買ワン。エー死ナン。ヨー死ナン。ヨー死ネン。)の類

第二十二條

先方の適當せる意、先方に然る資格の具りある意をあらはす語遣、如何。

第二十三條

願望する語遣如何。

カナリ食ワレル。カナリ食エル。隨分ウマク食エル。此ノ著物ヲマダ當分ワキラレル。
(食ウニイイ。著ルニイイ。秋田)の類

買ッテ下サイ。

買ッテオクレナサイ。

買ッテオクレ。

來テ下サイ。

來テオクレ。

云イタイコトガ澤山アル。

買イタイモノガ澤山アル。

之モ捨テタイ。の類

第二十四條

命令する意をあらはす語遣如何。

本ヲ讀メ。

著物ヲキヨ。

ココエ來イ。

コレヲ見ロ。

ソレヲ見セロ。

コレヲシロ。

ココニ居ロ。

ココニ居レ。

ココヲオ讀ミ。

之ヲ御覽。

ココエオイデ。

ソレヲオ見セ。

ココエオ座リ。

ココヲオ讀ミナサイ。

ココエオイデナサイ。

ソレヲオ見セナサイ。

ココエオイデアソバセ。

ココエキタマエ。

モ一歸リタマエ。

(著物ヲキイ。之ヲ見イ。

アレヲセイ。

關西地方。

此處ヲ讀ンデ見セレ。新潟)

の類。

第二十五條

禁止する意をあらはす語遣如何。

ウソヲユイナ。

ソシナコトヲスルナ。

ソシナコトヲオシナ。

ココエ來^キチャーイケナイゾ。

ウソヲオイイデナイヨ。

ソシナコトヲオシデナイ。

(ソシナコトヲスナ。高知)

ソシナコトヲオスナ。某地方)

の類

ツマラナイモノヲカウナ。

ウソヲオ云イナ。

ソシナトコロエオイデナ。

ソシナコトヲシチャーナラソ。

ツマラナイモノヲオカイデナイヨ。

第二十六條

人に問ふ意をあらはす語遣如何。

モ一干ルカ。

色ヲ黄イカ。

マダコナイカ。

ズイブンキレイカ。

之デイイリ。

形ワコンナカ。の類

第二十七條

自から疑ふ意をあらはす語遣如何。

モ一死ノ一カ。

モ一死ヌダローカ。

モ一死ヌカシラン。

之デイイカシラン。

マワリワ静カカシラン。

味ワド一カシラン。

之デ澤山カシラ。

之デ十分カシラ。の類

第二十八條

反語のいひかた、如何。

ソンナコトガアルモノカ。

マダく死ヌモノカ。

今頃來ルモノカ。

之デイイモノカ。

之ガスイモノカ。

綺麗ナモノカ。

(ソンナコトガアラズカ。

ソンナコトヲセ一ズカ。

静岡、長野) の類

第二十九條

形は左の如くにて、眞意は、相手をして注意せしめ、又は、反省せしめ、又は、相手を説服する意をあらはす語遣、ありや。あらば、詳記せられたし。

ソコニアルダロー。

モ一死ヌダロー。

コレデイイデショ。

マア、ザットコンナデショ。

ドーダ、ソコニアルダローガ。
マダ見エマイガ。
コレデヨカローガ。

モー死ヌダローガ。
イヨく、コマイガネ。
ズイブンキレイダローガ。の類

第三十條

表面は問の形にて、眞意は断定する意をあらはす語遣、如何。

モー始マルダローヂャナイカ。

モー始マツタローヂャナイカ。

モー來ルダローヂャナイカ。

僕モー所ニイコーヂャナイカ。

コレデイイダローヂャナイカ。

コレデヨカローヂャナイカ。の類

第三十一條

追想する意、想起する意をあらはす語遣、如何。

昨日來^キタツケ。

ソーク、アノ人モ來テ居^キタツケネー。

大變オモシロカッタツケ。

ソーク。

ソーク、カネー。

ソーク、ソーク、カネー。の類

第三十二條

現今と事情の甚しく異なれる過去の事件を追懐して物語る語遣、如何。

ソノ頃ニワヨク會讀トユロコトヲヤッタモノダ。

若イ時分ニワ飯ノ七杯ヤ八杯ワケナク平ゲタモンデスガ、モト、コノゴロデワ四杯ガヨロヨイデス。の類

第三十三條

物語、又は他の話を他に語る語遣、如何。

ムカシノ或トコロニヂーサントバーサントガアッタトサ。アシタマタ來ルトサ。

金サンモ今ニ出征スルノダトヨ。の類

第三十四條

噂をする意をあらはす語遣、如何。

随分イロ／＼ナコトヲスルソダ。

アノ人モカウトユロコトダ。

大變ナ人出ダッタソデ御座イマス。

アシタマタ來ルトサ。の類

第三十五條

假定し、且、抑ふる意をあらはす語遣、如何。

イクラ人ガイイッテ、馬鹿ニスルニモホドノアッタモノダ。

イクラ人ガイイトイッテ、馬鹿ニスルニモホドノアッタモノダ。

イクラ人ガイイッテ、馬鹿ニスルニモホドノアッタモノダ。

イクラヒマガアルトイッテモ、ソークマイ。

イクラヒマガアルッテモ、ソークマイ。

金ワイクラカッテモイニセヨ、コンナコトニツカッテワ、オシイヂャナイカ。の類

第三十六條

假定、又は、條件をあらはす語遣、如何。

假定をあらはす語遣と條件をあらはす語遣と異なるものあらば、例を擧げて詳記せられたし。

アス雨がフレバ、イカナイヨ。

アス雨がフリャー、イカナイヨ。

アス雨がフッタラ、イカナイヨ。

コレで頭ガモット大キカッタラ、大變ダ。

モ一一日モ雨がフルト、水が出ル。

モットドンくフレバ、イイニ。

ソレデワルケレバ、コチラノヲアゲマシヨ。

ソんなコトヲユ一ナラ、オ前ニワセラナイ。

第三十七條

提示する意、想起する意をあらはす語遣、如何。

ソレデイイナラ、オ持チナサイ。

ソンナニホシイナラ、アゲマシヨ。

コノ雨ガモ少シツツコーモノナラ、川ワ水ガ出ルヨ。

ソンナコトヲイフーモノナラ、大變ダ。

コレデ頭ガモット大キカローモノナラ、大變ダ。の類

小刀ナラ、ココニアルヨ。

吉田トイエバ、コノ頃ワチットモ來ナイネ。

吉田トイヤー、コノ頃ワチットモ來ナイネ。

吉田トイッダラ、コノ頃ワチットモ來ナイネ。

アノ男ノ唄ト來タラ、トテモキカレタモノヂャナイ。の類

第三十八條

義務をあらはす語遣、如何。

コレカライカナケレバナラナイ。

コレカライカナケリャーナラナイ。

(コレカラ行カネバナラン。

コレカライカナチャラン)の類

第三十九條

語氣をつよめていふ語遣、如何。

ソレヂヤ誰ダツテ困ルモノネ。

私ワ少シモ知ラナイノダモノヲ。の類

第四十條

感動をあらはす語遣、如何。

困ルコトネー。

ホントニ寒イコト。

アアイヤダコト。の類

第四十一條

餘情を残すいひかた、如何。

昨日來テクレレバ、ヨカッタニ。

ソシナコトワシナクテモイイノニ。

今日アタリ來ナクテモイイモノ。

モット早ククレレバヨカッタモノヲ。の類

第四十二條

敬意を表する語遣、如何。

私モ買イマス。

私ガオ話シ申シマス。

私モ參リマス。

コノ御本ヲ一寸オ借り申シマス。

オ貸シ申シマス。

何ヲオ買イナサルノデスカ。

今日ワドノオメシヲオメシナサイマスカ。

ソナニ幾枚カオメシ遊バストオ暑ウ御座イマシヨ。

ドコエオイデ遊バシマス。

ソレデオヨロシユゴザイマシヨ。

先達ノオ話ノ品ヲオ探シニナリマシテモ御座イマセンデシタデシヨ。

コナタワ大層オ静カデゴザイマスネ。

手紙ヲカイト下サイ。(本ヲ貸シテツカーサイ。手紙ヲカイトオクレヤス。

何ヲ買イナハル。何ヲキキヤハッタナ。エローニギヤカヤオマヘンカ。本ヲヨムシ。

菓子ヲクウシ)の類

〔附録敬語法整理略表参照〕

第四十三條

左の如き場合には、ガといふか、ワといふか、ノといふか、又は、何といふか。

此處ニ讀賣新聞ガアル。

此處ニ讀賣新聞ガアル。

第四十四條

左の如き場合には、**ノ**といふか、**ガ**といふか、又は、**何**といふか。

コノ本ガホシイ。ココノ方ガ静カデイイ。の類

オ前ノヲオクレ。

私ノモアゲル。

學校ノヲ借リル。

一本五錢ノヲ三本買ウ。

コンナ上等ノヨリモモット下等ノガイイ。

キタナイノヨリモ綺麗ナノガイイ。

此ノ繪ヲ昨日一ペン見タノダ。の類

第四十五條

左の如き場合には、**ニ**といふか、**エ**といふか、又は、**何**といふか。

家ニカエル。

遊ニイク。

机ノ上ニノセル。

御佛前ニツナエル

アナタニ差上グマス。

東京ニ住ンデイマス。の類

第四十六條

左の如き場合には、**チ**といふか、**何**といふか。

何ヲイウカ。何ヲシテイマスカ。

繪ヲ書ク。

新聞ヲヨンデイマス。(ナニユーシヤッタ。新聞ノヨム。飯ノクウ。畫一書ク。)の類

第四十七條

左の如き場合には、エといふか、イといふか、又は、何といふか。

京都エイク。

机ノ上エノセル。

東エムク。の類

第四十八條

左の如き場合には、必ず、トといふか、又は、何といふか。

山田トイウ人。

今日ワクルトイッテイタ。

キツクルダロト思ウ。の類

第四十九條

左の如き場合には、ヨリといふか、ヨリモといふか、ヨリカといふか、ヨリカモといふか、又は、何といふか。又、下に必ず方といふ語をつかふか、如何。

アレヨリコノ方ガイイ。

私ヨリアナタノ方ガ年上デシヨ。

ソナコトヲスルヨリモコーシタ方ガ仕事ガラクデシヨ。

ココヨリカモアソコノ方ガヨサソダ。

(私トワアナタノ方ガ背が高イダロ。コレトワソノ方ガイイダロ。) の類

第五十條 左の如き場合には、いふか、又は、何といふか。

何カウマイモノワナイカ。何ゾウマイモノワナイカ。

何處カオモシロイトコモキイコ。誰カイルカ。誰ゾイルカ。

ドレカイタダキタイモノデス。マアドーカコーカモノニナリソデス。

何カカカトリマゼタラ、ソノ位ニワナリマシヨ。の類

第五十一條 選擇する意をあらはす語遣、如何。

新聞ナリ雑誌ナリ何カ一部買ッテヤリタマエ。湯デモ水デモイイカラ、少シ下サイ。の類

第五十二條 小を擧げて大を言外に悟らしむる意をあらはす語遣、如何。

少シナリトホシイ。少シナリトモホシイ。

一冊デモ買ヒタイ。單衣デモ一枚クレルトイイガネ。

足袋一足ダッテクレヤーシナイ。

僕デサエ知ッテイルノニ、君ノ知ラナイトイウコトガアルモノカ。

アンナ大家デサエ知ラナイコトガアルノダカラ、我々ワ無理ワナイサ。の類

第五十三條

動作の極限をあらはす語遣如何。

鐘ノ音ガココマデキコエル。一日ニドコマデイケルカ。

私ニマデ下サル。

アナタニマデ御迷惑ヲカケテワスママセン。の類

第五十四條

卑下する意をあらはす語遣如何。

私ナゾワドーデモヨーゴザイマス。

私ナンゾワドーデモヨーゴザイマス。

私ナドワドーデモヨーゴザイマス。

私ナンカワドーデモヨーゴザイマス。

私ヤナンカワドーデモヨーゴザイマス。

イクラ私デモソナコトワイタシマセン。

イクラ私ダッテソナコトワシナイ。

夫ワ僕ダッテ知ッテイル。の類

第五十五條

強むる意をあらはす語遣、如何。

夫コソ大變ダ。

私ノ方デコソオ禮ヲ申上ゲナケレバナラナイノニ……

私ヲ夫ヲ存ジマセン。

私ニワソレヲ下サイ。

夫ヲ子供デサエ知ッテイルモノヲ……

一體、橋ト云ウモノヲ何ノ役ニタツモノカ。

アノ人ノ洋行スルトイウコトヲ久シイ前カラキイテイタ。の類

ソソチニサムイコトワアリマセン。

今新聞ヲバ讀ンデイマス。

昨日林トイウ人ガ來テ……

東京トイウ處ヲ隨分ニギヤカナ處ダ。

第五十六條

他の附屬物までを抱合する意をあらはす語遣、如何。

柿ヲザルゴトモラウ。

盆サラヤル。

入物グルミヤッテシマッタ。の類

重箱ゴトイタダイテオキマシヨ。

本箱トモ買ッタ。

第五十七條 「そのまゝ」の意をあらはす語遣、如何。

ソレナリ持ッテイク。

始終ネタナリデイル。

昨日出タマ、イマダニ歸ッテキマセン。

昨日出タギリイマダニ歸ッテキマセン。 の類

第五十八條 他の物と區別する意をあらはす語遣、如何。

ソノ本ワドコニ賣ッテイル。

コノ本ワホシイネ。

ソンナニ寒イコトワアリマセン。

私ニワコチラノヲバ下サイ。

今新聞ヲバヨンデイマス。 の類

第五十九條 並列する意をあらはす語遣、如何。

昨日モ一昨日モ來マシタ。

生レルノモ死ヌノモアル。

アアノコノトイッテ……

アレノコレノトイロくエリギライヲ申シマシテ……

勉強スルノ勉強シナイノドコロヂャアリマセンヨ。

第六十二條

意の反轉する意、即ち「雖」の意をあらはす語遣、如何。

オ前モクレバヨカッタノニ、ナゼ來ナカッタ。

今日ワ山澤サエクルモノヲ、小林ワナゼコナイダロ。

雨ワフルケレド、路ワソソナニワルクワナイ。

雨ワフルケレドモ、路ワソソナニワルクワナイ。

雨ワフルガ、路ワソソナニワルクワナイ。

雨ガヤンデモ、路ガワルイ。の類

雨ワフツテモ、路ワワルクワナイ。

第六十三條

背反の意、即ち「ドコロカ」の意をあらはす語遣、如何。

コレデイイドコロカ、大變ダヨ。

コレデワルイドコロカ、誠ニ結構デス。

の類

第六十四條

「而して」の意をあらはす語遣、如何。

ソシテ、ソノアトワドーナリマシタ。

ソシテ、ソノアトワドーナリマシタ。

シテ、ソノアトワドーナリマシタ。

デ、ソノアトワドーナリマシタ。の類

第六十五條

語を改めていふ意をあらはす語遣、如何。

トコロデ、キノノオ話ワドーナリマシタ。

ソコデ、先刻ノ件、デスガネ……

の類

第六十六條

「則」の意をあらはす語遣、如何。

ソースルト、ソコエ蛙ガピヨコ〜トトビ出シテ來テ……

スルト、ソコエ蛙ガピヨコ〜トトビ出シテ來テ……

の類

第六十七條

「ソコデ」の意をあらはす語遣、如何。

ソコデ、イヨ〜仕方ガナクナッタカラ……

デ、イヨ〜シカタガナクナッタカラ…… の類

第六十八條

假定する意をあらはす語遣、如何。

ソレナラ、コーシヨ。

ソレナラ、コーシヨ。

ソレデワ、コーシヨ。

ソレチャ、コーシヨ。

デワ、コーシヨ。

チャ、コーシヨ。

デワ、君ワアスワコナイネ。 チャー、君ワアスワ來ナイネ。 の類

第六十九條 理由をいふ意、即ち「夫故に」の意をあらはす語遣、如何。

夫デ、私ワ今日ワザく來タノデス。 夫デモッテ、私ワ今日ワザく來タノデス、

夫ダカラ、イケナイト、僕ワ、初ニイッタンチャナイカ。

ダカラ、イケナイト、僕ワ、初ニイッタンチャナイカ。

ダカラシテ、イケナイト、僕ワ、初ニイッタンチャナイカ。

夫ダモノダカラ、大層困ッテシマッテ…… の類

第七十條 反轉する意、即ち「然るに」の意をあらはす語遣、如何。

然シナガラ、世ノ中ノコトトイウモノワ、ソ一思ウヨ一ニワイカナイモノデアル。

然シ、世ノ中ノコトトイウモノワ、ソ一思ウヨ一ニワイカナイモノデス。

ケレドモ、世ノ中ノコトワソ一思ウヨ一ニワマイリマセン。

ダガ、僕ワイカナカッタ。 ガ、果シテソ一デアローカ。

トイッテ、今更別ニシカタモアリマスマイ。 ダッテ、今更ヤメルワケニモイキマセン。

第七十一條

「但し」「尤も」の意をあらはす語遣、如何。

デモ、ソーウマクワイキマセンヨ。夫ガ、ドーモウマクイカナイノデ、コマル。
トコロガ、ドーモウマクイカナイノデ、コマル。 の類

但シ、割引ヲ全クシナイソーデスカラ、ソー御承知ヲ願イマス。

尤モ、價ノヤスイカワリニ、少々品ガオチルソーデス。 の類

第七十二條

「且」「且又」の意をあらはす語遣、如何。

ソレニ、山本モイコトイウモノデスカラ、イヨク一所ニイクコトニキメマシタ。
ソノ上、値段モアマリ安クナイカラ…… の類

第七十三條

「況んや」の意をあらはす語遣、如何。

マシテ、私ノヨーナモノニワ及ビモツカナイコトデ…… の類

第七十四條

左の諸語の種々の場合に於ける用例を示せ。類例あらば、夫をも
舉げよ。なほ、左の如くいはずるものは何といふか、用例を舉げて
詳記せられたし。

ナゼ。

ドーモ。

トテモ。

キット。

決シテ。

マサカ。

ドーセ。

イヅレソノ内ニワ何トカイッテ來マシヨ。

何ダカコー、マルデ、夢ノ様ナ氣ガシマシテ……。

何デモ給ヲキテイタ時分デス。

ドーシテモイクコトガ出來マセン。

何ガ何デモアンマリナシウチデワアリマセンカ。

ナアニカマウモノカ。

ドーゾ。

ドーカ。

ゼヒ。

セメテ。

イツソ。

セツカク。

トニカク。

トモカク。

何シロコレデワドーモ困ルナ。

ナニシロドーモ大變ナ人出ダ。

モシモ、モシカ。

ヨシンバ。

サスガ。

ナカク。

サモ。

丁度。

マルデ。

ヤハリ、ヤッバリ、ヤッバシ。

今ガタ、今シガタ。

コノゴロ。

コノアイダ。

アクル日、ツギノ日。

イツカ。

イツゾヤ。

第七十五條

上につかひたるテニナハに對して下に特殊の語遣をなすことありや。あらば、如何。

イマニ「インマニ、未に」。

イマニ「チキニ」。

ナガイコト待ッタ。

シバラク「永く」オ目ニカ、リマセンデシタ。

時々。

チヨット（イッペン。大阪）。

イチド。 シジュー。

ノベツニ。

フダンニ。

メッタニ。

ツイ、ツイニ、ツイゾ。

歸リガケニ寄ッテ來タ。

歸リシナニヨッテ來タ。

今更。

全ク。

スツカリ。

ソツクリ。

マルデ。

トント。

マンザラ。 タッタ。

モー一ツ下サイ。

此ノ筆ワ一本イクラシマスカ。

大層（タイヘン、エラク）。

モットホシイモノデス。

モソットホシイモノデス。

澤山。

チヨイト。

ナマジイ。

ナマナカ。

ナオ。

ナオノコト。

テンデニ、メイク。

オモニ「主として」。

コー「斯く」。

コーシテ、コーヤッテ。

アア「彼の如く」。

アアシテ、アアヤッテ。

ドー。

ワザク。

ワザト。

タッテ「如何にしても」。

ミスく。

イキナリ。

試ニ。

チカニ。

第七十六條

左の如き場合には、ダタといふか、ダカタカカといふか、又は、何といふか。

(雨コソフレカ、風ワ吹カン。富山)

(雨コソ降レ。ソレコソヨケレ。鳥取、大分) の類

何ダ知ラン。

何カ知ラン。

誰ダト思ッタラ、アナタデシタカ。

誰カト思ッタラ、アナタデシタカ。

イツデアッタシラン。

イツデアッタカシラン。

誰ノ話ダッタシラン。

誰ノ話ダッタカシラン。 の類

第七十七條

左の如き場合には、ガといふか、ノといふか、又は、何といふか。

花ガ咲イテイル枝ヲ折ッテワナラナイ。

花ノ咲イテイル枝ヲ折ッテワナラナイ。

(ワシンク來テ見イ。高知) の類

第七十八條

左の如き場合には、ノといふか、ガといふか、又は、何といふか。

第七十九條

左の如き場合には、必ずノを入れていふか、又は入れずにいふか、又は、何といふか。

コノ本ワオ前ノカ。

モット品ノイイノガホシイ。

此ノ繪ワ昨日一ペン見タノダ。

(モット品ノイイガヲホシイ。

コンナ上等ノガヨリモット下等ノガガイイ。

キタナイガヨリ

キレイナガノ方ガイイ。

コノ繪ワ昨日一ペン見タガヂヤ。富山)

の類

コノ本ガコレデ上等ナノカ。

キタナイノヨリモ綺麗ナノガイイ。

鶯ノ垣根ノアタリニ來テナクノワ大層ノドカダイイモノダ。

鶯ノ垣根ノアタリニ來テナクノモズイブンイイモノダ。

鶯ノナクノヲ聞クト、イヨク春ニナッタヨ一ニ感ジマス。

雨ノ夜シヨボくトフルノワサビシイモノデスネ。

雨ノシヨボくフルノヲキ、ナガラネルノモ随分イイモノデスヨ。

雨ノ音ノ屋根ヤ雨戸ニバラくトスルノニ雷ノゴロくトイウ音マデマジツテ、マコトニモノ

スサマシイ……の類

第八十條

左の如き場合には、チといふか、ガといふか、又は、何といふか。

私ワ甘イモノガスキダ。

私ワ甘イモノヲスキダ。

私ワ菓子ガタバタイ。

私ワ菓子ヲタバタイ。

氷水ガホシイナア。

氷水ヲホシイナア。

机ノ上ニ本ガオイテアル。

机ノ上ニ本ヲオイテアル。

國旗ガ門ニタテテアル。

國旗ヲ門ニタテテアル。の類

第八十一條

左の如き場合には、ニといふか、ガといふか、又は、何といふか。

此ノ本ワ私ニワヨメナイ。

私ニ手紙ガカケルト、事情ヲ委シク申シテ上ゲルノデスガ……の類

第八十二條

左の如き場合には、ヨリ外ニといふか、ヨリ外といふか、ヨリとの
みいふか、又は、何といふか。

私ノホシイモノワ繪ヨリ外ニナイ。

米ガモ一三升ヨリ外ニナイ。

第八十三條

左の如きいひかたありや。あらば、なるべく多く擧げられたし。

病氣ニナル〔病む〕。

オ止ニナル〔止められる〕。

イケヤーシナイ〔イケナイ、悪イ〕。

シヤーシナイ〔シナイ、セン〕。

入ラッシャリヤーシナイ〔居ラレナイ〕。の類

オ歸リニナル〔歸られる〕。

オ遊ビニナル〔遊ばれる〕。

イヤーシナイ〔イナイ、居ラヌ〕。

イキヤーシナイ〔行カナイ〕。

私ノホシイモノワ繪ヨリ外ナイ。

私ノホシイモノワ繪ヨリナイ。

私ノホシイモノワ繪外ナイ。

私ノホシイモノワ繪ギリ外ニナイ。

私ノホシイモノワ繪ギリナイ。

私ノホシイモノワ繪シカナイ。

米ガモ一三升ヨリ外ナイ。

米ガモ一三升ヨリナイ。

米ガモ一三升ホカナイ。

米ガモ一三升ギリ外ニナイ。

米ガモ一三升ギリナイ。

米ガモ一三升シカナイ。

米ガモ一三升ギリシカナイ。の類

第八十四條

その地方にて用ゐる凡ての感動詞を擧げ、且その種々の場合に於る用例とその意義とを詳記せられたし。

ナ。	ナ。	ネ。	ネ。	ネ。	ヨ。	ヨ。	ヤ。	何ダイ。
ノヨ。	ノネ。	ノサ。	カナ。	(カイナ)。	ノ。	ノシ)。		
								の類

第八十五條

語勢をつよむる語遣、如何。

ソコデダ、ソコデモ一ツスルドクツツコンデヤルト、ヨカッタノニ……
所ガデス、夫ガド一モウマクイキマセンノデ……

誠ニド一モ暫クデゴザイマス。

是非一ツ御奮發ヲ願イタイモノデ…… の類

第八十六條

語勢をやすむる語遣、や、躊躇する意をあらす語遣、如何。

ソ一デスネ、ド一モコマリマスネ一。

アノ私モアノ御一所ニ參リタイト存ジマスガ、アノ如何デゴザイマシヨ一。

第八十九條

人に應答するに用ゐる語如何。詳細記載ありたし。

ハイ。

ヘー。

ヘーヘー。

ヘーヘー。

ウン。

アイヨ。

ハハハ。

ナルホド。

エエ。

イヤ。

イヤ。

イエ。

イーエ。

(ンネ。廣島。

エ男。アイ女。高知)

の類

第九十條

人に對して挨拶する時の語如何。詳細記載ありたし。

今日ワ。

今晚ワ。

オハヨイ。

オハヨイゴザイ。

オアツ。

オサム。

サヨナラ。

サヨナラ御機嫌ヨイ。

の類

口語法取調に關する事項終



明治四十一年三月三十日印刷

明治四十一年三月卅一日發行

文部省內

國語調查委員會

東京市京橋區高代町四番地

印刷者 高島幸三郎

東京市京橋區高代町四番地

印刷所 高島活版所

